

# ふしみサラダボール子育て情報

「幼児の有能感」

令和4年9月14日号

板橋富士見幼稚園



## 自己肯定感を育ち育てる子育て

幼児期に育ち持って欲しい心情感は、プラスの感情です。人は、生まれたときに、「快の感情」と「不快な感情」の二つの感情から出発します。その育みは、親の深い愛情の中で始まります。

生後まもなく、微笑んだり泣いたりして、自分の欲求を伝え養育者に対して依存し始めます。親たちはその都度素早く答え、その子の欲求を満たそうとします。素早く欲求を満たす行為を養育者が積み重ねることで、子ども自身が存在意義を肯定できる感情が生まれ、自己肯定感が育まれます。

しかし、成長とともに欲求は次々と増加します。親はその増加に対して、「ひょっとしたらうちの子わがままになってしまうのでは…」と心配が心をよぎります。わがままなのか、それとも自己主張なのかと悩みはじめ、時には欲求を無視したりするようになります。



そうなってくると、子どもの中で不快な感情が知らぬ間に増加し、せっかく育ちつつある感情の自己肯定感が崩れ始めてしまうことがあるのです。ここで、改めてお話しておきますが、高い自己肯定感、つまり褒め続けることがあっても、決してわがままな子になることはありません。

【写真：先日親子で梨狩り遠足に行ってきました】

それよりも、1歳から6歳まで、いや15歳まで、褒めながら育ててあげると、顔の相にも自己肯定感が現れ、人に対する思いやる心や、人を受け入れる豊かな心情感が芽生えます。その豊かな心情感によるEQ（心の知能）は、人格とともに優れた知的能力を育ち持つといわれています。ぜひ、わが子の良いところを褒めぬいてあげてください。ただし、褒めるだけではいけません。褒められている根拠をしっかりと伝える褒め方が必要なのです。やたらに褒めるのではなく、本人が褒められている意味をしっかりと分かるように話す褒め方が大切になります。ぜひ今日から褒めて育ててみてください。子育てが楽しくなりますよ。

